

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



ちよう きん
彫 金

ほり なお ひさ
堀 直 久

(平成9年度作品)

16ミリ映画・ビデオ
カラー・21分

プロフィール

住所、荒川区西尾久3-21-4

明治44年(1911)、富山県生れ。

平成8年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される。

子供の頃から手先の器用だった堀さんは、実修学校で彫塑を学んだ後、彫金界の第一人者、海野勝珉門下の竹田竹義に師事し、彫金の修業を重ねる。戦時中徴兵され、一時仕事を離れていたが、昭和26年ころから再び彫金の道に戻った。その当時たくさんあった骨董屋で彫金を施した額などを見てまわり勉強したという。

常に他人のやっていない新しい事をやろうと取り組んできた堀さんは、山中温泉にある旅館のために彫った花椿の絵柄を用いた作品で、初めて乱反射という堀さん独自の技法を生み出した。その後乱反射技法は、堀さんの得意とする虎の絵柄で、躍動感を感じさせる見せ方として完成した。

堀さんは現在、乱反射技法を用いて、花を描いた作品を完成させようと取り組んでいる。

企 画 東京都荒川区教育委員会・制作 株式会社 文化工房
著 作

用具・工具

銅板、^{たがね}鑿（300～400本）、金槌、ヤギ台、回転作業台、ヤギ（松ヤニ、地の粉、種油）、^{はおすみ}朴炭、白絵具、鉄棒など。



用具・工具

工程 — 虎の場合 —

(1) 【下地づくり】

・銅板を朴炭で磨き乾燥後、松ヤニを溶いた液を塗り、下絵を描くための白絵具を塗る。

(2) 【下絵描き】

・日頃から気に留めた雑誌の切り抜きなどの資料からデザインのモチーフを得て、鉛筆での下描き後、筆を使って描いていく。

(3) 【ヤギづくり】

・鍋で松ヤニを溶かしたところへ、地の粉（粘土を焼き、砕いて天日で乾燥させた粉）と種油を加え作る。
・銅板を裏返し、鉄棒で囲んだ中へヤギを流し込み、ヤギ台をのせて固定させる。

(4) 【彫り】

・銅板の付いたヤギ台を作業台に固定し、彫り始める。
・「毛彫」という線刻技法で鑿を使って刻んでいく。
・「乱反射」技法を施す。
【乱反射技法】…見る角度で光る部分が微妙に変化し、躍動感などを表現する技法。
※この他に「丸毛彫」、「片切彫」、「高肉彫」、「鋤彫」などの技法がある。

・最後に「桂月」の号を彫り込む。

(5) 【色付け】

・堀さんと打ち合わせをした仕上師がメッキで色付けする。



彫り



完成品

この記録〈ビデオテープ〉は、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16mm映画〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16mm映画〉の貸し出しには団体登録と16mm映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

〈問い合わせ先〉

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

荒川図書館・・・3891-4349

町屋図書館・・・3892-9821

尾久図書館・・・3800-5821

日暮里図書館・・・3803-1645

南千住図書館・・・3807-9221